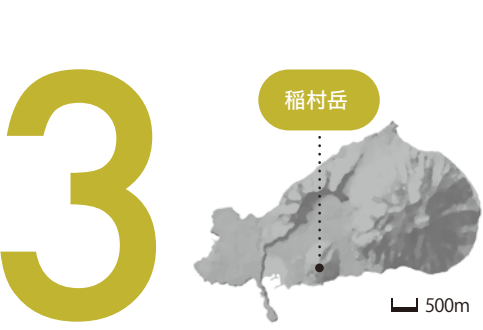




「樺の木は体の重みで縦に裂けます。ウンベ（ム）採りでは要注意です。」
硫黄島地区 50代 男性

思い出話
硫黄島地区 50代 男性

稲村岳は、水はけの良いスコリアと水を通さない岩盤で構成され、その特性が独自の自然環境を作っていると思われる。例えば、稲村岳の麓には水はけのよい土壌を好む樺^①や、ムベ^②が見られる。また、水を通さない岩盤が水を蓄えるのか、稲村岳は集落の給水源にもなっている^③。稲村岳の地質と生物は、眼に見える部分では関係がありそうだが、稲村岳の研究は進んでおらず、まだはつきりしない。今後の研究に期待したい。

スコリアは内部に多くの穴をもつ多孔質物質である。この穴は、地下のマグマが噴出時に減圧され、マグマ内の水や二酸化炭素が気化して形成される。白い多孔質物質は「軽石」、黒く赤いものは「スコリア」と呼ぶ。また、噴出物や溶岩のなかで多孔質な部分が高温状態のままおかれると鉄分が酸化して赤褐色となるが、これは磯松海岸付近で確認できる^④。

2つの火山をつくる岩は異なり、山の形に影響している^⑤。硫黄岳は流紋岩質の火山で、粘りのある溶岩や崩落した溶岩塊が層状に堆積している。一方、稲村岳は玄武岩質の火山で、発泡したマグマの塊（スコリア）と呼ぶのが火山周辺にふせたお椀状に積み上がっている。また火山活動中に噴出物の堆積→溶岩の流出という過程を繰り返している^⑥。火山周辺は溶岩が流出すると崩れ、その後の噴火で崩れた火山が再生する。これを繰り返して馬蹄形の火山をもつ現在の火山地形となつている^⑦。

硫黄岳と稲村岳は7300年前のカルデラ噴火後に誕生した火山である。硫黄岳の活動は5200年前に、稲村岳は3900年前、そのあと硫黄岳が2200年前に再び活動して現在に至る。

硫黄島
水瓶としての稲村岳

日	月	火	水	木	金	土
1 旧 1/13	2 旧 1/14	3 旧 1/15 満月	4 旧 1/16	5 旧 1/17	6 旧 1/18	7 旧 1/19
8 旧 1/20	9 旧 1/21	10 旧 1/22	11 旧 1/23 下弦	12 旧 1/24	13 旧 1/25	14 旧 1/26
15 旧 1/27	16 旧 1/28	17 旧 1/29	18 旧 1/30	19 旧 2/1 新月	20 旧 2/2 春分の日	21 旧 2/3
22 旧 2/4	23 旧 2/5	24 旧 2/6	25 旧 2/7	26 旧 2/8 上弦	27 旧 2/9	28 旧 2/10
29 旧 2/11	30 旧 2/12	31 旧 2/13	1	2	3	4